

## 【基本的運営方針】 A 優れた作品の収集と保管

評価項目	評価指標	指標値	実績値	達成率	評価	コメント(評価の考え方)
コレクションの活用状況	コレクションの稼働率	98.0%	111.3%	113.6%	a	所蔵品点数256点に対して、館内並びに館外展示(近美コレクション、ミギシ・サテライト、移動美術館)による活用は述べ285点。他の美術館での活用は、府中市美術館やパナソニック汐留美術館等に計11点を貸し出した。アートギャラリー北海道事業の「#みまのめ」や「シャーマンコレクション」展の開催で、三岸作品の展示スペースが減少したが、目標値を上回った。
	所蔵作品を他の美術館企画展で活用					
コレクションの充実度	収集方針に基づき、主体性を持ち積極的に収集活動を行う				a	収集対象作品の調査を継続して行う中で、長く所在不明であった油彩画《花》(1932年頃)の情報を得、平成19年以来、12年ぶりに購入による作品収集が実現した。小品ながら晩年の秀作で所蔵の花の絵とは作風が異なり、画業の展開を示す貴重な作。花は人気のモチーフでもあり、当館はもとよりミギシサテライト等での幅広い活用も見込まれる。また、三岸の行方不明作品が掲載された絵葉書を寄贈により資料として収集することができた。
保管状況の適切さ	適正な保管環境を保持し、必要な調査に基づき措置を行う 計画的に所蔵作品の修復を行う				b	館内の虫害対策や紫外線量の測定管理など、保管・展示環境の適正な維持に努めるとともに、昨年に引き続き、収蔵庫内の整理を行い、脆弱な登録資料については中性紙による保存箱に分類整理し、保存環境を整えた。また、額について反射により鑑賞しにくい作品のアクリルを無反射アクリルに取り替えた。

## 【基本的運営方針】 Aの評価

評価	コメント(評価の考え方)
A	アートギャラリー北海道事業の多彩な企画と平行して、コレクションを十分活用した。コレクションの充実については、12年ぶりに購入による作品収集があった。保管状況については、資料整理とともに保管環境の整備を行った。

## 【評価の評語】

評価の結果	評価項目	基本的運営方針
優れた成果を上げている	a	A
目標(計画)を達成している	b	B
目標(計画)をほぼ達成している	c	C
目標(計画)を達成できていない(努力が必要)	d	D
方法に再検討が必要	e	E

## 【基本的運営方針】 B 多彩で特色ある展示活動の充実

評価項目	評価指標	指標値	実績値	達成率	評価	コメント(評価の考え方)
常設展示の充実度	常設展示観覧者数	11,000人	7,722人	70.2%	c	コロナ対策による臨時休館で減じた日数を勘案すると、観覧者数の指標値は9,570人、実質達成率は80.7%となるが目標に達せず。2月の外国人来館者減少の影響あり。満足度やリピート率は目標を上回った。特に「子どもと楽しむmima」展ではリピート率が50%を超えた。アンケートでも、同展や「たんけん美術館」などの子ども向け企画が好評で、一定の成果をあげた。
	常設展示観覧者の満足度	87%	92.3%	106.1%		
	常設展示のリピート率	37%	44.7%	120.8%		
特別展示の充実度	特別展示の観覧者数	2,800人	3,079人	110.0%	a	観覧者数、満足度、リピート率、すべて目標上回る。特に、リピート率が上昇。特別展の内容に加え、北海道ゆかりの若手を紹介する「#みまのめ」併設も作用していると思われる。アンケートでは特別展の「#みまのめの企画がよかった」「良い企画なので続けてほしい」との意見が多く寄せられた。
	特別展示観覧者の満足度	85.0%	89.5%	105.3%		
	特別展示のリピート率	40.0%	47.3%	118.3%		
入館者の拡充	美術館の魅力を広め入館者増につながる取組の実施				b	作品解説の英語表記を充実させたほか、三岸以外の作品展示にも取り組み、若手作家や道内美術館と連携した企画を開催。また、「子どもと楽しむmima」展では、中学生以下が来場者の20%を超え、若年層の来館者を多く獲得した。
展示の状況	展示のねらいが効果的に表現できているか				b	アンケートのコメント好評。展示のねらいが理解されていることがうかがわれ、効果的に展示できたと考える。
館外展示の充実度	移動美術館入場者満足度	設定なし	設定なし	設定なし	b	近代美術館との共同実施による移動美術館で、遠方地域で作品を紹介した。また、札幌市中央区の旧三岸好太郎美術館の建物を利用した「北菓楼 札幌本館」に「ミギシ・サテライト」を設置し、旅行者を含む来店者に作品鑑賞の場を提供し、広報に努めた。
	その他の館外展示の状況					

## 【基本的運営方針】 Bの評価

評価	コメント(評価の考え方)
B	全体的に目標を達成した。三岸作品を子ども向け企画を含めた多彩な角度から紹介するとともに、「アートギャラリー北海道事業」の2企画を開催し、三岸作品紹介にとどまらない展示活動を展開した。

## 【評価の評語】

評価の結果	評価項目	基本的運営方針
優れた成果を上げている	a	A
目標(計画)を達成している	b	B
目標(計画)をほぼ達成している	c	C
目標(計画)を達成できていない(努力が必要)	d	D
方法に再検討が必要	e	E

## 【基本的運営方針】 C 豊かな人間性を育む学習の場と美術情報の提供

評価項目	評価指標	指標値	実績値	達成率	評価	コメント(評価の考え方)
教育普及事業の充実度	教育普及プログラムの実施数	35回	48回	137.0%	a	教育普及プログラムの実施数と参加者数、満足度はいずれも目標を大きく上回った。当館の特色の一つである音楽事業がアンケートでも好評であったほか、今年度、重点的に企画した子ども向けプログラムでの参加者が大きく伸び、成果を上げた。同プログラムのぬりえや自由工作のコーナーは外国人来館者の参加も多数見られ、体験型プログラムが幅広い層に好評を得た。
	教育普及プログラムの参加者数	2,000人	3,152人	157.6%		
	教育普及プログラムの満足度	88.0%	95.3%	108.3%		
	教育普及事業の状況					
美術情報提供の充実度	ARS、図書コーナーの利用者件数	3,800人	4,470人	117.6%	c	図書コーナーの利用件数や満足度は概ね目標を達成した。HPアクセス数も、ほぼ目標を達成。ソーシャルメディアについては、昨年2月より開始したツイッターで、展示や作品の解説、イベント情報のほか、「#みまのめ」出品作家の情報など、幅広い内容について細やかな発信を実施した。フォロワー数は212名と少ないが、ツイート毎に全国から500~6,000程度のアクセスがあり、掲載内容に関連したマスコミからの情報掲載依頼もあり、SNSの活用も一定の成果を上げていると考える。
	ARS、図書コーナーの利用者満足度	75.0%	71.8%	95.7%		
	多くの来館者が利用できる図書コーナーの環境整備・保持					
	HPアクセス件数	163,000件	149,599件	91.8%		
	メールマガジン等発行回数	実施なし	実施なし	実施なし		
	ソーシャルメディアの投稿数	50回	313回	626.0%		
	情報発信の状況					

## 【基本的運営方針】 Cの評価

評価	コメント(評価の考え方)
A	特別展を初めとする展覧会関連企画のほか、音楽事業や子ども向け事業など多彩な教育普及プログラムを開催し、目標を達成した。

## 【評価の評語】

評価の結果	評価項目	基本的運営方針
優れた成果を上げている	a	A
目標(計画)を達成している	b	B
目標(計画)をほぼ達成している	c	C
目標(計画)を達成できていない(努力が必要)	d	D
方法に再検討が必要	e	E

## 【基本的運営方針】 D 活動の基礎となる調査・研究の推進

評価項目	評価指標	指標値	実績値	達成率	評価	コメント(評価の考え方)
調査・研究の充実度	学芸員による調査報告				C	学芸員による調査は、計画していた特別展図録は制作できなかったが、展覧会の企画内容や解説の執筆、講座に活かされた。今年度は三岸関連の特別展のほか、若手作家の紹介企画や道内美術館所蔵の浮世絵展を開催し、それらの調査研究を精力的に行い、展覧会開催に結びついた。後者の成果は連携館に提供し、今後の展示に活かされることになり、アートギャラリー北海道事業として研究面でも連携することができた。また、学芸員がこれまで行ってきた三岸以外の道立美術館の所蔵作家研究も継続し、道立美術館や連携館での図録執筆や講演会で活かした。
	二次資料の状況					

## 【基本的運営方針】 Dの評価

評価	コメント(評価の考え方)
C	調査研究に根ざした展覧会を計画通りに開催し、展覧会に付随する解説シートなども発行した。また、学芸員が蓄積してきた三岸好太郎以外の調査についても道立美術館や連携館の図録や講演会で活かすことができ、おおむね目標を達成することができた。

### 【評価の評語】

評価の結果	評価項目	基本的運営方針
優れた成果を上げている	a	A
目標(計画)を達成している	b	B
目標(計画)をほぼ達成している	c	C
目標(計画)を達成できていない(努力が必要)	d	D
方法に再検討が必要	e	E

## 【基本的運営方針】 E 地域文化の振興

評価項目	評価指標	指標値	実績値	達成率	評価	コメント(評価の考え方)
地域の関係機関との連携状況	ボランティア団体等の主体的な事業の参加者数	890人	555人	62.4%	d	コロナ対策による臨時休館で、ボランティアの解説が2月22日までの活動となったため、ボランティア団体等の自主的な事業への参加者数は目標値には届かなかった。特色ある連携活動としては北教大や札幌大谷大学の推薦による卒業生の音楽会を開催した。そのほか、札幌国際芸術祭2020のイベントとして「子どもと楽しむmima」展の鑑賞ツアーを同実行委員会との共催で開催し、好評を得た。
	ボランティアが活動しやすい場の提供					
	地域と連携した取組の状況					
学校との連携の状況	キャンパスパートナーシップのメンバー校数	2校	2校	100.0%	a	出張アート教室については本年度は要望がなかった。学校教育への対応は目標を上回り、自主研修や職業体験に対応したほか、三岸好太郎の出身校である札幌市立資生館小学校や札幌南高等学校をはじめ、市立札幌大通高校などと密な連携に基づく鑑賞授業を展開することができた。参加した児童生徒の感想文や礼状から、実際に美術館に来館することで、それぞれの視点で絵画の魅力をとらえ、感動を得ていることがうかがえる。また、本項目の対応数には含めていないが、近隣の小学校2校において出前授業を行い、好評を得ている。
	出張アート教室の延べ参加者数	設定なし	設定なし	設定なし		
	指導者研修の延べ参加者数	設定なし	設定なし	設定なし		
	学校教育活動への対応数	8件	13件	162.5%		
	参加者・利用者満足度					

## 【基本的運営方針】 Eの評価

評価	コメント(評価の考え方)
B	ボランティア団体、地域、学校等との連携については、年度当初の目標を達成した。

## 【評価の評語】

評価の結果	評価項目	基本的運営方針
優れた成果を上げている	a	A
目標(計画)を達成している	b	B
目標(計画)をほぼ達成している	c	C
目標(計画)を達成できていない(努力が必要)	d	D
方法に再検討が必要	e	E

## 【基本的運営方針】 F 良好な滞在環境の提供

評価項目	評価指標	指標値	実績値	達成率	評価	コメント(評価の考え方)
附帯施設の充実度	レストラン・喫茶利用者の満足度	75.0%	94.3%	125.7%	a	喫茶並びにミュージアムショップの満足度については目標を達成した。事業者と協力してのサービス向上については、当館の展覧会やイベントにあわせたオリジナル・スイーツの企画や展示作家のデザイングッズの販売のほか、子ども向けメニューの提供(事業者主体企画)を実施して好評を得、来場者の満足度が高まったと考える。
	ミュージアムショップ利用者満足度(喫茶に併設)	75.0%	94.3%	125.7%		
	事業者と協力してのサービス向上の実践					
館のホスピタリティ	館内スタッフの対応に関する利用者の満足度	90.0%	93.4%	103.8%	b	館内スタッフのうち、利用者対応の機会が最も多い受付と監視は委託業者が行っており、それらのスタッフへの満足度は目標を達成した。来館者の9.2%を占める外国人対応のため、受付はじめ英文による館内表示を増やしており、外国人来館者の満足度も高めるよう努めた。
	ホスピタリティ向上に向けた取組み					
施設環境の保持	施設内外の環境への満足度	85.0%	91.0%	107.1%	b	施設内外の環境への満足度については、おおむね目標を達成した。また、計画的に多目的トイレや喫茶窓枠の補修、空調のための給水配管工事などを実施し、施設設備の保持に努めた。
	施設安全性保持のための必要な措置					

## 【基本的運営方針】 Fの評価

評価	コメント(評価の考え方)
A	附帯施設の充実度、館のホスピタリティ、施設環境の保持について、目標を達成することができた。

## 【評価の評語】

評価の結果	評価項目	基本的運営方針
優れた成果を上げている	a	A
目標(計画)を達成している	b	B
目標(計画)をほぼ達成している	c	C
目標(計画)を達成できていない(努力が必要)	d	D
方法に再検討が必要	e	E